令和３年度　稲沢市地域自立支援協議会　第４回就労支援部会　議事要旨

[日　時]　令和４年１月 18 日（火）午後２時～午後３時 15 分
[場　所]　稲沢市役所　第１分庁舎　２階　第３会議室
[出席者]　就労支援部会委員７人、事務局３人
[欠席者]　就労支援部会委員１人
[議　事]
１　協議事項
（１）　障害者雇用をお考えの企業のためのオンライン学習会
　　アンケート結果について（事務局）

委員 A　学校への質問が少なかったように感じた。次回があれば実習の内容などの企業側が関心があるようなことにもう少し時間を取って説明できたらと思っている。反省点は次の機会に活かしていきたい。

委員 B　Zoom のおかげでそんなに緊張せずにできたのは個人的によかった。開催したことで、参加数は少ないが、企業がこういう機会を希望しているということがわかり、規模は小さかったが、利用できる機会となりよかった。

委員 C　待ち時間を詰めてもよかった。事業所毎の時間が短かったので、もう少し長かったら伝えられることももっとあったと思う。

委員 D　集合形式が多かったので説明をするにあたっては実際に現場で見ていただきながらの方が分かりやすく、感じたことを直接質問してもらった方が企業のためになると思う。初めてやった中ではやりやすかった。開催手順については企業も参加しやすいと思う。時間はたくさん使ったが、もう少し規模や時間が短くても興味ある企業に対してやっていけると良い。次も検討してみても良いかなと思う。

委員 E　リハーサルもありスムーズに運営していただいたと思う。オンラインということで企業説明も上手くできたが、実際見させてもらうという事は非常に大きい。オンラインでも分かるが、実際に見に行くと障害者が就労している現場が分かる。今回の開催としては上手く流れたと思うが、やはり現場を見るほうが本当の雇用をあげるということだと思う。

委員 F　コロナ禍なので、今までは実際訪問していたがオンラインで出来たのはよかった。もちろん見るのが一番想像しやすいが、来年オンラインでやるなら映像など取り入れても良いかなと思う。どこに相談すべきか分からない企業に分かってもらえたのは良かった。企業から１回は質問が出ていて活発でよかった。

部会長　アンケートの中にあるように実際に見るのとオンラインだと雰囲気は違うと感じる。その場の雰囲気を知るというのは見学会の意味があるということがわかった。皆さんの発表や資料作成により充実したものになったと思う。何もしなければ終わるがコロナで先の見通しが立たない中でよくできたと思う。

（２）次年度のとりくみについて

部会長　今回のアンケートを見ると実際に見たい、事例を知りたいという意見がある。見学会が良いかその他の提案があれば。事例紹介はもっと時間があれば良いか。

委員 A　現場であればもっと時間があっても対応できる。採用を進めていきたいという企業からの要望は、一番は現場を見たいことなのか、どうなのか。直接質問してみたいことはあるのではないか。

委員 B　支援機関にお話を聞くというのは学校の話と企業の話、支援機関ということで沢山あった。一緒にやると時間がかかる。

部会長　9 社だけでは全体の要望はつかみにくい。障害のあるかたを雇用することについて企業はどこまで思っているかきける機会があると良いが、アンケートをしても答えてもらえるか。以前見学会をした時に、担当職員と当事者でお話してもらったことが分かりやすかった。サポートする人や当事者の話がきけることが貴重であると思う。映像で流すと一方通行になりキャッチボールがしにくい。

委員 B　今年雇用しなければいけないという企業から相談を多く受けた。上司から言われているが知識がないという相談が多かった。そこに焦点を充てるのもいいかなと思う。そもそも障害が分かっていない。飛び跳ねる人がいて大丈夫かとか、イメージできないとか。知的障害なら特別支援学校からきくと良いし、精神や発達のかたは福祉サービス関係者からも話をききイメージをつかむこともできる。その中で卒業生も全部就職するのでなく福祉サービスも利用しているという構成でもいいかと思う。実際に今回は、今の時点で理解しているかということがあり紹介しにくかった。焦点を絞ってもよい。

部会長　くくりが大きいので、本当に初めて障害のあるかたと関わる企業と、これからもっと継続してやっていくにはどうしたらいいかという企業と、雇用率の関係で、という企業と、思うところが違うかもしれない。余裕があればステップ別にやれるかもしれない。そういうことは可能か。

事務局　何回かに分けて小さいものをやっていき、焦点を分けてということで良いか。

委員 B　障害のあるかたが働くことにはいろいろなハードルがある。特別支援学校も知らないかたもいる。社会に出るまでにこんなことをしているというステップがあり、その次に支援機関がある。その次に実際に雇用している企業がある。

事務局　1 つは障害の特性が分からない、知りたいということでもよいか。

委員Ｂ　そういう方々のどういった層が地域で働く、自分たちと一緒に働くというイメージが持てるとよいか、その流れとか。

事務局　企業へのアンケートはどうか。

部会長　障害者雇用について企業がどう思っているかということを情報として知りたい。商工会議所からお願いしてもらうと良い。

委員 E　回収率が気になる。今回もチラシを増刷りして配布物に入れたが特に反響はない

というのが実際だった。参加企業も一宮ハローワーク管内でない企業もあった。興味のない企業に送っても意味がない。雇用したいところに送る必要がある。不足している企業を訪問していても全く不可という企業も多くある。昨日お会いした企業は特別支援学校の生徒を雇用したいという流れで相談が来た。商工会議所なら小規模の企業にも送るかたちになるので、小規模では難しいのかなと思う。100 人を超えた場合に納付金が発生する企業は力を入れ出すという印象がある。取り組み始めた事例がある。規模が小さい企業は難しいのかなと思う。

部会長　アンケートの件は要検討。見学をしようと日程を決めるとその日に行けない人がある。学校は、1 か月間くらい開放月間は可能か。

委員Ａ　個人情報の問題があり、実際に見るのはいいがオンラインはダメになる。動画は難しい。1 か月間開放というわけにはいかないが、昨日 1 社企業が見学に来た。個別の見学は受け入れできる、アナウンスしていただければと思う。団体になると制限がある。

部会長　例えば特別支援学校の連絡先を書いておいて、お問い合わせ下さいということでも良い。

委員 A　当初の雇用は親族の会社であったが、雇用してみると他のかたと変わらないのでもっと採用したいということがあった。最初のとっかかりがハードル。企業として利益をあげる必要があるので何人もということは難しいが、とっかかりが上手くできればと思う。市内の企業では人事担当者が説明された。現場は雇用の経験がなく、なにも分からない。現場が受け入れるかどうかということがある。現場でないかたは真剣に考えている。どうやっていけば良いか難しい。

委員 E　地道に当たるのが手間はかかるが堅実で現実的。一斉に知っていただく方法があれば良いが。

委員 B　今回の参加企業のいくつかは県のサポートデスクが案内している。企業からの求人と活動している情報をネットで公開でき、支援者がパスワードを入力して閲覧できる。そういうマッチングの機会をサポートデスクと考えられると良いと思う。企業の相談窓口になっている。困っている企業との出会いになるかもしれない。

委員 E　ハローワークでも面接会で大きくやっているが雇用につながったかというと乏しい。支援機関が個別にアプローチしてつなげる方が確実につながっている感覚がある。見学はやっていくことに意義があると思う。個々の企業に接触しないと難しい。

また、出前講座的なものも実施している。企業のトップから出ろと言われて出ているだけのかたもある。少しは入り口になっていると思うがそんなに反響はない。

委員Ｂ　障害についてざっと知ることはできる。まとめてある冊子をもらえてなにかあった時にはマニュアルになるということでは良い。

委員Ｅ　実際に見るのが分かりやすい。

部会長　うちの会社の例でいうと、いつだれが来てもらっても良い。部会で受け付けていますということで来てもらえれば良い。見学に来られると社員みんなが喜ぶ。そういう会社ばかりではないと思うが。

委員Ｂ　コロナ禍だが、対策も変わっているので、少人数で企画すれば次年度はできるのではないかと思う。やはり行くのが一番という意見があるので、小規模で開催するという企画も１つ。何回かできれば関わる委員も少なくしてということもどうか。

部会長　来年度、初回の部会で事務局案を提示して、検討することとする。

２　その他

（１）就労支援機関マップについて

完成版について配布。

（２）　就労支援事業所連絡会について

会議の実施状況について説明（事務局）

部会長　販売して出すものはたくさんあるか。

事務局　販売先を増やしたいという希望はある。

委員Ｂ　一宮市の協議会でも話をしているが、もう少し大学とかとコラボすれば良いのにと思っている。野菜を使い、例えば、調理学科のようなところがあれば何かしてもらう。こちらは野菜を作るだけで活用してもらう。そういう方向で地域と繋がることができれば良いのではと思っている。高校や大学とコラボすると新聞にも載ることが多い印象がある。記事になると大きい。

事務局　市内の大学は栄養学科があるところもあるのでコラボしていくことは良いと思う。

部会長　動くのが大変なのかなと思うが、学校を利用するなら情報系の学科があるところで障害者の施設が扱っている商品がどうやったら売れるかというものを考えてもらうのはどうか。学生に事業所のことを知ってもらえるだけでも良い。